

## 所外研修⑨ 体育示範授業参観及び講義

8月5日(水)に琉球大学附属小学校で開催された「体育示範授業・講義」に第9回所外研修として、小学校の研究者が参加しました。筑波大学教育学部附属小学校教諭の眞榮里耕太教諭によって行われた小学校2年生の体育の授業「体づくり運動からマット運動・ボール運動へとつながる授業づくり」授業に学校内外から100名余の先生方や学生の皆さんが参観した示範授業でした。その後、講義①「体育授業の今後のありかたと授業づくりの提案」、講義②「筑波からの発信、フロアからの質疑応答」があり、現在の小学校体育のあり方と充実した体育授業づくりについて、多くの示唆を頂きました。



写真1 琉大附属小学校前にて

教育研究員の感想 (研修日誌から)

私たちは運動感覚を遊びの中で自然と身に付けたように感じています。その意味では体を使ったいろいろな遊びはとても大切だったんだと思います。今の子どもたちは遊びでは運動感覚を育てることはできない状況だと感じています。そのような状況の中で体育の時間に求められるものが多くなるのだらうと感じています。学校体育の時間で運動感覚を育てるよう取り組む中で運動の楽しさ(できる楽しさ)を感じさせ、運動感覚を身に付けさせる必要があるのだと思います。現場では短い時間でも継続して運動感覚につながる運動に取り組ませることが大切だと考えています。

講演では授業実践の紹介がとても参考になりました。工夫している点が分かりやすくすぐに使えそうな内容もありました。特に体育ノートの活用方法はちょっとした工夫で大きな効果があるのだと感じました。体育の授業でやったことを記録として残すことはそれぞれの子どもの成長や教師の指導を振り返る上で有効だと思います。(大城厚)

今日の眞榮里先生の授業では、子どもたちの「基礎感覚・技能」を育てる動きを低学年から取り入れ、高学年の運動につなげていけるようなしなやかな動きがたくさん込められた授業でした。めいっばい子どもたちが動き、ゲームとしての運動を楽しんでいる様子が印象的でした。ゲーム(対戦)に重点を置くのではなく、ゲームをする上で必要な動きの感覚や動き方を身につけ、それを生かしながらゲームに取り組むことを重視していました。自分自身の体育の授業を見直し、よりよく改善するため、「基礎感覚・技能」を育てる動きについてもっと勉強していきたいと思っています。(長門照乃)

「体づくり運動からマット運動・ボール運動へとつながる授業づくり」というタイトルがまさに私の研究にも繋がっている内容だったので、とても楽しみでした。体づくり運動からどのようにしてボール運動とマット運動という2つの違う領域につなげていくのかとても気になっていました。すると、授業前にボールの基礎技能を身に付ける運動を二人ペアで行い、授業が始まるとおりかえし運動を始めていました。おりかえし運動の中に様々な動きが取り入れられており、マットの上で前回りをするというルールのもと、子ども達は汗をかきながら楽しそうに一生涯懸命取り組んでました。指示も的確で短く、児童の運動量が十分確保されていました。はしごドッチは、コートの高さや入れ替え戦方式等子ども達の興味・関心を高めるルールの工夫があり、私も是非すぐにでもやってみたいと思いました。1番印象に残ったのは「『できた』を増やすことが体育授業」ということです。この言葉を聞いた時、私の研究でクラスの子どもの『できた』を増やすことができる授業になっていたのかと考えてしまいました。今、研究のまとめに入っていますが、うまくいっていない状況で今回の研修は改めて検証授業の様子を思い出すことができ、もう一度頑張ろうという気持ちを持たせてくれる機会になりました。

(具志堅智美)